

平成22年度特別支援学校における医療的ケア運営協議会 第1回協議の要旨(報告)

実施日 平成22年9月6日(月)
特別支援教育課

- 1 特別支援学校における医療的ケアの実施状況等について
 - (1) 平成21年度特別支援学校における医療的ケア運営協議会 協議の要旨の報告
 - (2) 特別支援学校における児童生徒の医療的ケアについて リフレット(試案)確認
 - (3) 平成22年度医療的ケア実施状況【資料1】
 - (4) 平成22年度医療的ケアにかかわる研修の状況報告
 - (5) 医療的ケアに関する課題
- 2 実施体制における諸課題について
 - (1) 気管カニューレ、経鼻経管チューブが抜去した場合の対応について
 - ・経鼻栄養チューブについて、看護師は再挿入できない。
 - ・気管カニューレについて、看護師が再挿入してよいとは言えない。
 - ・緊急時の対応として即時に対応しなければいけないこともある。
 - ・チューブやカニューレがきちんと入ったかの確認が必要である。
 - ・医療事故が発生した場合の責任は避けて通れない。
 - ・その度に保護者が呼び出されて病院等に搬送することの負担も配慮したい。
 - ・教育委員会は、周知すべきことは早めに周知していく。
 - (2) 教員による「胃瘻の半固形物の手押しによる注入」について
 - ・「胃瘻の半固形物の手押しによる注入」は、子どもの健康増進につながる。胃瘻の手術が増えている現状から、今後増えていくことが予想される。
 - ・看護師が対応した場合、一人につき20~30分を要し、負担も大きい。
 - ・手技的に難しいものではないが、教員が実施することは医師法に反しており、事故が発生した場合、責任が看護師にも及ぶ。
 - ・まずは、ステップ研修の内容に入れていくことが可能か検討していただきたい。
 - ・教育委員会は、協議内容を踏まえ検討の上、次回に提案をする。
 - (3) 指導医による学校訪問相談支援システムについて
 - ・学校現場からの要望は多い。
 - ・システム化すると、今でさえ目一杯の医師の業務が更に忙しくなる。
 - ・保健厚生課の専門医派遣事業を利用する方法もあるか。
 - ・指導医のシステムは他県でもあることから、関係者と相談し、次回に事務局で提案をする。
 - (4) 医療的ケアにかかわる手技等の確認について
 - ・肺のリハビリ目的のアンビュー加圧はしてよいか。
 - ・スクイーピングは機器を使わないためよいが、アンビューは医療機器であることから実施できない。
 - ・個々のケースにより検討できる余地はある。
 - ・医療事故の発生が想定される内容を実施しないようにすることが看護師を守ることになる。